【セッション⑤】違法スポーツ賭博対策に関する世界の最前線

登壇者（敬称略） **※肩書はイベント開催当時のもの**	Guy Reinenbergh （National coordinator Sport fraud for the Belgian Federal Police） Corentin Segalen（Chair of the Group of Copenhagen（ナショナル・プラットフォームネットワーク）） Tom Nairn（Victoria Police Detective Inspector Sporting Integrity Intelligence Unit） Francisco PORTUGAL（INTERPOL）
モデレーター（敬称略） **※肩書はイベント開催当時のもの**	岩城 農 当協議会理事／株式会社マイネット代表取締役社長 CEO

岩城：このセッションのテーマは、スポーツが犯罪の標的になっているという問題に最前線で取り組まれているキープレーヤーでありエキスパートでもある方々に、オンラインも含めて世界各国からおいでいただきました。スポーツがなぜ犯罪の標的にされていて、具体的にどのような形で標的にされているのか。そして、それにどう対応されているのかについて、多くの事例をご紹介したいと考えております。

まず、オンラインでインターポールから参加いただいている、Franciscoさんからプレゼンテーションをいただければと思っています。

Francisco PORTUGAL：インターポールに所属する Francisco と申します。私はインターポールでスポーツの腐敗やドーピングを担当しておりますが、今日は競技の操作についてお話をいたします。

インターポールは、196 の加盟国を持つ世界最大の国際警察組織です。各国警察による情報共有や国際捜査を支援しています。スポーツ競技の不正操作については、幅広い知見を持っております。報告されている事件の数はそれほど多くありません。しかし、報告されていない水面下に隠れているものは、もっとたくさんあると考えています。

なぜそう考えるのか、理由はたくさんあります。ここで、幾つかの興味深いことをご紹介いたします。私たちの組織には複数の関係者で構成されるタスクフォースがあり、競技の不正操作に対応しておりまして、たくさんの関係者からアラートをもらいます。

このアラートは、競技の操作を確認できた事例だけでなく、ベッティングの分析をして何か不自然な点を感じたとか、何か疑わしい試合があるというような場合にも寄せられます。昨年は 4,000 件ほどのベッティングのアラートがありました。このうち、アジアと南太平洋地域では 38 件のアラートがあって、一番多いのはサッカーで、2番目がバスケットボールです。ただし、他の競技も危険にさらされていると考えています。

スポーツ競技の不正を取り締まるのは、警察、法執行機関です。どこの国でも法執行機関は

強制力があり、容疑者を検挙することができますし、証拠品を押収できます。財務報告書を見ることもできますし、携帯電話をはじめとしたデバイスを調べることができます。他方、スポーツ界で競技の公正や健全性を守っている組織や機関の協力も必要です。

さらに、各国政府の協力も必要です。なぜなら、スポーツ競技の不正を取り締まることができる適切な法律が必要だからです。法律に反したという事実がなければ、法執行機関は何もできません。また、国際的な事案のほとんどはベッティング業界と関わりがありますから、疑わしいベッティングが行われた証拠になる帳簿とか、あるいは、犯罪行為が疑われるベッティングのパターンがあるかどうかも分析しなければなりません。

インターポールは世界最大の法執行機関です。私たちは世界中ほとんどの国と連絡することができます。今の世界は通信ネットワークでつながっていますので、ある国で行われる競技を、別の国から不正に操作することができてしまいます。そうしたケースは実際にたくさん起きています。

先ほど触れた競技の不正のタスクフォースには、インターポールに加盟する 196 の国や地域のうち 124 がメンバーになっています。メンバーと国の警察とは密接に連携していますし、年次会議も開催しています。そこには世界中の警察官や関係者が集まります。というのも、1国の警察だけでは対応できないからです。そこでたくさんの犯罪捜査が行われます。詳しくはお話しできませんが、大きなデータベースがありますし、ベッティングアラートもたくさんあります。

ブラジルで起こった競技の不正操作事件では、ブラジル当局が指名手配した容疑者は、私たちがサポートすることによってドバイで逮捕され、そこからブラジルに強制送還されました。この容疑者は、ブラジルのサッカーで 42 チームに関わっていました。他にも、中国で不正操作をしている疑いのある人物が、ポルトガルに渡航しているところを、私たちが支援をして逮捕することができました。中国がレッドノーティスを出し、その対象者をポルトガルで見つけたわけです。そして今、中国に送還する手続きをしております。

スペインの国家警察が扱った事件では、76 人が逮捕されました。この犯罪グループは、衛星通信を使って不正をしておりました。衛星を使ってピッチ、現場から情報を得て、ベッティング会社がオッズをアップデートする前に不正を働いていました。

また、彼らは競技の不正操作をするようアスリートにアプローチしていましたが、その行為をスペインでする一方、犯罪で得た資金のマネーロンダリングは別の国で行っていました。そして、衛星通信はさらに別の国のシステムを利用しているといったように、多くの国や地域にまたがって犯罪行為をしていましたので、インターポールとユーロポールが協力し合って、捜査を行いました。この犯罪グループには指名手配、レッドノーティスが出ました。すると、首謀者は UAE に移動しましたので、UAE で逮捕され、スペインに送還されました。

スペイン警察はこの犯罪グループが 44 カ国の競技で不正操作をしていたことを突き止め、それに関する情報のパッケージを作って、この 44 カ国と共有しました。その結果、捜査が他の国でも開始されました。私たちは持っている情報を他の国と共有して、取り締まりができるようにしています。スペイン警察は作成した情報パッケージを、国際的な競技団体、例えば FIFA

や国際テニス連盟、オリンピック委員会とも共有しました。というのも、スポーツ競技の不正を防ぐためには刑事捜査だけでは十分ではなく、腐敗に対して競技団体が懲罰を与える必要があるからです。

インターポールは、世界各国のオリンピック委員会とも連携しています。競技団体レベルで不正を発見できる能力を得てもらうためのトレーニングもしています。

違法賭博について申し上げます。幾つかの調査によって、年間で 1.7 兆ドルものお金が違法賭博に流れ込んでいることが分かっています。さきほどスポーツベッティングでのアラートをお話ししましたが、このアラートは、あくまで合法的なベッティング事業者から提供される情報を基にしています。違法な賭博に関わる業者はそもそもが犯罪者ですから、法執行機関に情報を提供することはありません。つまり、違法なベッティングが広がっても、その実態を把握すること自体が極めて難しいのです。しかも、違法賭博に関わる犯罪者は、スポーツ競技の不正操作だけではなく、他の国で行われている他の犯罪、例えばマネーロンダリングや人身売買にも関わっています。

インターポールでは、大規模な国際サッカー大会に合わせて「オペレーション SOGA」を実施しています。SOGA とはサッカー賭博のことで、違法なサッカー賭博を取り締まるために世界中の法執行機関をサポートします。大きなサッカーイベントに合わせて実施し、2024 年には UEFA 欧州選手権を対象に関係各国の法執行機関をサポートしました。その結果、5,000 人以上が検挙され、大会中は違法賭博に関わる 3 万 5,000 以上のウェブサイトを閉鎖させました。2026 年は FIFA ワールドカップに合わせて実施しますので、たくさんの違法賭博を摘発できると思います。

最後にフィリピンでの事件をご紹介します。フィリピンで摘発された犯罪グループは、違法な賭博とオンライン詐欺、ロマンス詐欺や暗号通貨を使った詐欺を行っていただけでなく、人身売買にも関わっていました。650 人以上の人身売買の被害者が違法賭博を行うセンターで働かされていました。インターポールの視点からすると、違法賭博や競技の不正操作より人身売買の方が重罪で、いま私の同僚たちが、その捜査をしています。

今日は非常に広範囲の話をさせていただきました。質問があれば、E メールでご連絡ください。

岩城：ありがとうございました。重要な示唆が2点あったと思います。まず、インターポールが、極めて高いプライオリティーで違法スポーツ賭博の取り締まりに取り組んでおられることが、よく分かりました。もう1点は、違法賭博には国際的なネットワークがあって、競技が行われている国とは別の国で賭博が行われ、元締めや仲介人がたくさんいて、彼らを捕まえようとしても、各国の法律が違い、八百長試合が違法でない国があるといったばらつきがあるということです。さらに、アスリートが巻き込まれるということを考えますと、この問題への対応には国際連携が不可欠であり、それがスポーツとアスリートを守り、スポーツの魅力を維持することにつながると認識しました。

続いて、オーストラリア・ビクトリア警察の Tom さんに、具体的なケースのお話を聞かせてい

ただきたいと思います。

Tom Nairn: オーストラリアからこの会議に参加できることをうれしく思います。ビクトリア州警察組織犯罪対策課の Tom Nairn と申します。

ビクトリア州警察は Sporting Integrity Unit という専門の捜査部署を 2013 年 2 月に設置しました。スポーツの不正操作に関する情報を、さまざまな組織・団体から集めます。私が所属する課では、国や州のレベルでスポーツ倫理に関わる機関や部署と連携するだけでなく、ベッティングの会社やサービスプロバイダといったステークホルダーからも情報を得ています。

具体的な事例として、オペレーション・DEVON についてお話をしたいと思います。

これはオーストラリアのプロサッカーの試合で行われた不正で、半年ほど前に起きた事件です。このサッカー賭博は、ゲームの中で特定の状況が発生することにお金を賭けるもので、試合の勝敗とは結びつかないこともあります。オーストラリアでスポーツ賭博は合法ですが、WSP（Wagering Service Provider＝賭け事業者）というサービスプロバイダがベッティングのデータを分析し、疑わしいベッティングがあった場合は、政府機関である「オーストラリア金融取引報告・分析センター（AUSTRAC）」に報告します。AUSTRAC は不正な金融取引を監視する組織ですが、WSP の報告の中に法律に反する行為があるとの懸念を持ち、法執行機関による捜査が必要と判断しました。

不正が疑われたのは、サッカーA リーグのウェスタン・ユナイテッド FC に所属する檀崎竜孔選手で、彼は日本人です。試合中、故意に反則を行い、イエローカードを受けることでサッカー賭博の結果を不正に操作したとの疑惑が出ました。捜査は、檀崎選手がイエローカードを受けることに賭けた人物が、檀崎選手と関係があるのか、両者間で資金の流れがあるのかなどについて、サッカーの試合やベッティングのデータ、二人の行動が映った監視カメラ映像などを分析することなどで行われ、4 試合に関する不正行為の疑いを突き止めました。

既にサッカーのシーズンは終わっており、被疑者が出国してしまう可能性があったため、捜査はスピード勝負になりましたが、捜査令状が出されたことで確実な証拠を得られ、被疑者2人を逮捕することができました。被疑者2人はいずれも裁判で有罪となり、5,000 豪ドルの罰金刑が課されました。また、オーストラリアサッカー連盟は、檀崎選手に懲戒手続きをすることになりましたが、FIFA も世界的な制裁を与えると思われます。

岩城: Tom さん、ありがとうございます。続いて、ベルギー連邦警察の Guy さんから、欧州での事例をご紹介いただきます。

Guy Reinenbergh: それでは、欧州のプロテニス界で起きた不正スキャンダルを巡る「MAESTRO 作戦」を紹介いたします。これは八百長試合の背後に、大規模な犯罪ネットワークが暗躍していた事件です。

2015 年、ベルギーに本拠を置くアルメニア系犯罪組織が関与して、プロテニスで不正試合が行われているという情報が届きました。ベルギーでギャンブルの規制を担当する賭博委員会も不正な賭けが行われていることを確認し、刑事捜査が必要だとの判断に至りました。

犯罪組織の主要なメンバーは、ベルギーの小さな町にいました。この町はツール・ド・フランス

の舞台としては有名ですが、テニスでは知られていません。捜査は大規模なものになりましたが、最初は1人の刑事が担当し、この不正に関係する人物の名前や住所、電話番号を調べ上げ、電話の盗聴からデータ分析、行動監視などへ捜査の網を広げていきました。

その結果、犯罪組織はアルメニアに本拠を持つグループで、2014 年からベルギーで活動していることが分かりました。この組織は、たくさんの八百長試合を仕組みましたが、関わっていた選手はプロテニスでもチャレンジャーズやフューチャーズといった下部ツアーで、賞金額も 5,000 ドルから 1 万 5,000 ドル程度の試合でした。この犯罪グループがどのように動いているのかをマップにしてみましたが、まずマエストロと呼ばれる首謀者がいて、組織のベルギー支部のリーダーでした。その下には 100 人を超えるマネーミュール(運び屋)とベッティングミュール(賭けの代行者)が働いていましたが、そのすべてがアルメニアの犯罪組織につながっていました。

2018 年の 6 月 5 日が作戦の決行日となり、ユーロポール(欧州刑事警察機構)が調整をして、ベルギー国内だけでなくフランスでも家宅捜索を行いました。結果的に7人のベルギー人テニス選手が告発されましたが、捜査ではマエストロは Grigor Sargsyan という人物で、181 人ものプロテニス選手が関与していた世界規模の不正であることが分かったのです。私たちが思っていたよりも大規模な組織で、375 件の不審な試合が検知されました。

八百長の手口を説明します。例えば世界ランク 20 位の選手が 200 位の選手を相手にした試合があったとします。20 位の選手は簡単に第 1 セットを取ります。そうすると、第 2 セットも 20 位の選手が勝つ可能性が高くなってオッズが上がります。そこで、第 2 セットを 20 位の選手が落とせば、「第 2 セットは 20 位の選手が負ける」方に賭けていた人が大金を得ることになるわけです。

こうした八百長を下部ツアーの試合で行う場合、賭け金は 20 ユーロ、25 ユーロ程度にしかなりませんが、同じ日に複数回の賭けをすることで利益を最大化します。20 ユーロが 2 万 5,000 ユーロにもなりますから、最終的には 100 万ドル規模のビジネスになるわけです。一つの口座で 800 万ユーロ以上の資金が動いていたケースもあります。

2015 年に最初の情報を得て、2017 年から 2020 年まで捜査を行い、被疑者の公判、控訴審は 2021～2024 年までかかりました。確実な証拠を得るのに、たくさんのデータを解析する必要があるからです。

裁判の結果、マエストロこと Grigor Sargsyan は 5 年の懲役になりました。そのほかの組織のメンバーも 6 カ月から 3 年までの懲役です。テニスのプレーヤーたちも有罪にはなりましたが、刑の執行は免除されました。

ただ、テニス界はこの事件に衝撃を受けたようで、その後、テニスに関する不審な賭けのアラートはかなり減りました。そして 2019 年にはスペイン警察がテニスの八百長を摘発し、今年はフランスで同じ犯罪組織グループが摘発されるなど、国境を越えた捜査・摘発が行われています。

「MAESTRO 作戦」について、もっと詳しく知りたければ、ワシントンポストの記事になって

いますので読んでみてください。それ以上の情報を知りたいということであれば、私にご連絡ください。

岩城：ありがとうございました。ここで、Corentin さんにお話を伺いたいと思います。Tom さん、Guy さんからも具体的な事件のご紹介がありました。ここでの重要なキーワードは、国際連携です。各地で起きている事件を横断的に捉え、連携して対応する必要がありますが、それぞれの国の法律の整い方は違っているはずです。 そういった中で、マコリン条約を欧州評議会でまとめ、グローバルスタンダードを作る最前線に立たれているわけですが、チェアとして、マコリン条約の有用性についてコメントしていただけないでしょうか。

Corentin Segalen：コペンハーゲン・グループの議長として、今回が最後の話になります。といいますのは、私の任期がこの 12 月 31 日に終わるからです。

コペンハーゲン・グループは、マコリン条約に基づく各国ナショナル・プラットフォームのネットワークです。当初は 7 カ国しかありませんでしたけど、今は 47 カ国です。オーストラリア、ブラジルも入って、今、日本はアジアで唯一、コペンハーゲン・グループへの参加意思を示している国であり、私は日本の参加を支持しています。というのも、世界のスポーツベッティングの 3 分の 2 がアジアに集中しているからです。

特に日本での違法賭博は極めて大きな規模になっています。グローバルなベッティングマーケットの 5%が日本です。この金は現在、ほとんどが中国系の犯罪グループに流れているとみられています。南アジアに拠点を置いている中国系のグループです。それがまず、日本に参加していただきたい戦略的な理由です。またもう一つの理由は、日本の皆さまがスポーツベッティング規制の一番良いモデルを作るのをお手伝いしたいと思ったからです。

今日は、さまざまなプレゼンテーションがありました。インターポールの方やオーストラリアの話など、全て国際的な事件です。日本がコペンハーゲン・グループに参加することは、非常に大事だと思います。また、マコリン条約も大事です。

今日聞いた話によって、政治的な意志が日本にあることを確信しました。スポーツベッティングについてベストな規制モデルを作りたいという意志があると感じましたので、本日はお迎えいただいて感謝いたします。ありがとうございました。

岩城：これで終わらせていただきたいと思います。本日のセッションを通じて、何らかの気付きを得ていただけたのであれば幸いです。C-SEP としても、引き続きこのような情報発信に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。